

稲荷山古墳鉄剣銘文の「辛亥年」を「令和」に考える

埼玉県立歴史と民俗の博物館 企画担当 利根川章彦

『JUNO』の編集・刊行いつもご苦労様です。本年度の友の会担当者の利根川です。「平成」の次の元号が「令和」となりましたが、『万葉集』に納められた当代一流の万葉歌人として知られていた大伴旅人の歌の前文からとられていました。新元号に変わって間もない今だからこそ、古代の年代に関することを少しばかり書いてみよう、と思います。

埼玉県の出土品から年代を考えると、絶対に忘れることができないのは、行田市にある史跡「埼玉古墳群」の稲荷山古墳第一主体（礫槨）から出土した金錯銘鉄剣の銘文に記された「辛亥年」です。発見されたばかりの時期には、この「辛亥年」が西暦471年にあたるのか、それとも西暦531年と考えるべきなのか、盛んに論争が展開されましたが、もう40年も前の話です。現在では「471年説」がほぼ定説となっているためか、稲荷山古墳から始まる埼玉古墳群の築造の歴史は5世紀後半から、と考えるのが普通です。しかしながら、「531年説」で考えたらどうなるのか少し考えてみよう、と思います。

『日本書紀』の「531」年は、安閑天皇あんかんの父である継体天皇けいたいの治世二十五年であり、継体天皇が死んだ年になっています。2月に死んでいるので、この年の記事は、死んだ都の位置と葬られた墓の位置の記録しかありません。3年後の西暦534年に、武蔵国造むさしのくにのみやつこ笠原直使主かさはらのあたのおみと同族小杵おぎの内紛事件（いわゆる「武蔵国造の乱」）が起こります。結果、ヤマト王権が介入して、小杵は殺され、助けられた使主は、横渟よこぬ・橘花たちばな・多氷おおい・倉櫛くらすの4か所の屯倉みやげを献上することで事件は終結を迎えたことになっています。この「武蔵国造の乱」は継体天皇死後3年で起こったことになっていますが、次の安閑天皇即位まで2年の空白があるのに『日本書紀』はその2年を不問に付して、安閑天皇元年の出来事として「武蔵国造の乱」を記述しています。稲荷山古墳はこの事件の終結の結果作られたのではないか、だから『日本書紀』の記述のとおり古墳築造も展開しているのだ、と主張する考古学者もけっこういるわけです。でも、この不可解な『日本書紀』の記述については、何度か大きな論争がありましたが、現在でも解決したわけではありません。

こうして書いてみると、どうもあやしい、と思いませんか？ 私は、継体天皇と3人の子ども、安閑天皇せんか・宣化天皇きんめい・欽明天皇の時代は、中央政権においても激しい権力闘争が繰り返されていたため、正確な歴史的事実の記録が困難だったのではないかと憶測しています。間接的かもしれませんが、この点からも、稲荷山銘文の「辛亥年」＝「471年」という考え方は支持することができそうです。

考古学的な方面から考えれば、稲荷山古墳の出現は古墳時代の中期と後期を分ける重要な画期である、という故・岩崎卓也先生（元・当館資料評価委員）の重要な御指摘（岩崎 1990 『古墳の時代』 教育社歴史新書など）を考えることなしには、日本の古墳時代の考古学は語れません。

今後のイベントスケジュール *申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ:<http://junosaitama.net/> ブログ:<http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- | | | |
|-----------|----------------------------------|---------|
| ○2月23日(日) | 講演会「中世武士と馬」 | <中止> |
| ○3月1日(日) | 古代文化を考える会「渡来後の「倭人(天氏)」と「日本語」の起源」 | <中止> |
| ○3月6日(金) | まち歩き研究会「桶川宿と文化財散策」 | <中止> |
| ○3月11日(水) | プレミアム講座「妖怪談議—河童で読み解く民俗学」 | <中止> |
| ○3月19日(木) | 見学会「人形博物館と人形工房見学」 | <中止> |
| ○4月4日(土) | 古道探索倶楽部「第33回古道を訪ねて 日光道中その6」 | <今号で紹介> |
| ○4月16日(木) | 円空仏研究会 八潮大経寺 円空仏千住観音像御開帳 | <今号で紹介> |
| ○4月18日(土) | 講演会「旗本と知行所」重田正夫氏(埼玉地方史研究会会長) | <今号で紹介> |
| ○5月23日(土) | 午前 友の会総会 | |
| ○5月23日(土) | 講演会(近現代史関連)加藤陽子氏(東京大学文学部教授) | <次号で紹介> |

◆中止になった以下のイベントは延期して開催の予定です◆

- *講演会「中世武士と馬」は7月以降に延期開催の予定です。
- *古代文化を考える会は6月以降に延期開催の予定です。
- *まち歩き研究会「桶川宿と文化財散策」は5月以降に延期開催の予定です。
- *見学会「人形博物館と人形工房見学」は5月21日(木)に延期開催の予定です。

今後の状況により計画が変更される場合もあります。ご注意ください。
申し込みの場合の電話番号、Eメールアドレスは正確にご記入ください。

プレミアム講座(4)「埼玉にもいた!狩猟採集民~縄文のたべもの最新研究~」

1月29日に開催 66名が参加

企画展「縄文時代のたべもの事情」開催に尽力されている学芸員の尾崎沙羅さんから展示のツボを直接伺う機会を兼ねて今回のプレミアム講座でお話いただき66名が集いました。講師の尾崎さんは考古学、特に旧石器時代がご専門で、お話の口火も旧石器時代と縄文時代との比較から始まります。縄文時代に入ってから著しいモノは土器と住居と墓にあることが分るが、縄文海進により埼玉に海が入り込む地形が遺跡の分布と直結しており、生活の基本となる食事の解明もそれらの遺跡をしらべることで分かってきた。

特に埼玉に多く出土するヤマトシジミ(汽水域産)などの貝類は破碎されずにきれいに開いていることから、土器などを使って煮て食べたらしい。クルミやトチノキなどの植物利用に加えて、各種ベリー類やツルマメなどの豆類やツルボなどの球根(鱗茎)の利用もあったそうだ。近年、「炭素窒素安定同位体比分析」という手法の化学分析を古人骨に適用して、死ぬ前の10年間にどのような食生活をしていたかを探ることも可能になったという。時期と地域によって動物系と植物系の摂取の割合が異なる例も提示され、大変興味深かった。今後の研究成果が楽しみでもある。(西本 記)



クラブ活動 (活動・募集)

4つの富士塚を1日で廻る—まち歩き研究会

令和2年(2020年)1月9日に開催 22名が参加

江戸八富士といわれた富士塚のなかで、これまで廻っていなかった4つの富士塚を廻りました。参加者は22名。まずは江古田富士。西武池袋線で江古田駅に移動します。駅前からすぐ、浅間神社内にある富士塚の叢林が目に入ります。富士塚は高さ約8m、直径約30m。江戸時代後期に下練馬村・中新井村・中村の各講により構成される「小竹丸祓講」によって天保10年(1839年)に築かれたものと考えられます。国指定の重要有形民俗文化財に指定されています。全員で富士塚内に入り、全体を観察、立派な造営で管理がよく行われていることもわかります。

次いでJR総武線千駄ヶ谷駅へ。ここには都指定重要有形民俗文化財である千駄ヶ谷富士があります。塚のある鳩森八幡神社は駅より徒歩5分くらいの近さです。池を前景にした庭園の様に見える富士塚で、寛政元年(1789)の築造と言われます。高さ約6m。頂上に至る登山道は自然岩を用いた階段となっており、山腹にはクマザサも植えられています。



麓に里宮(浅間社)、身祿様、烏帽子岩が置かれ、山頂には奥宮があります。ここで記念撮影後、全員で参拝登山をしました。

境内を出て、坂を下ると今年のオリンピックのメイン会場となる新国立競技場が巨大な姿を見せています。3番目はJR鶯谷駅へ。ここから10分ほどにあるのが小野照崎神社の富士塚、通称下谷坂本富士です。ここも建設時の形態をとどめるとして、国の重要有形民俗文化財に指定されています。境内には古い庚申塔もあります。

最後は、JR東十条駅に移動し、線路を渡り、地藏坂を登った古道の脇にある東京富士塚通称十条富士です。

ここは塚自体が富士神社になっています。かなり大きく伊藤元講などの建てた石造物が、30数基あります。7月の山開きの行事は盛大な地域の年中行事になっているようで地元で愛されている富士塚であることは確かなようです。途中の省略あり。ブログもご覧ください。(筑井 記)

第33回古道を訪ねて 日光道中その6◆

2020(令和2年)年4月4日(土)に「古道探索倶楽部」

《日時》2020年(令和2年)4月4日(土) 集合9時30分~解散15時30分(予定)

《集合》東武伊勢崎線東武動物公園駅改札口周辺 9:30

《コース》東武伊勢崎線東武動物公園駅 ⇒ 浅間神社 ⇒ 宝性院 ⇒ 高野の渡し ⇒ 永福寺
下高野一里塚・大島有隣遺跡 ⇒ 神宮寺 ⇒ 岸本家 ⇒ 東武日光線幸手駅解散

《費用》資料代等・参加費 500円

《その他》歩行距離は約9km、史跡巡りを入れると10km少々。お弁当と飲物は必ず事前に御用意願います。

《問合せ先》前日まで犬走(いぬばしり) 048-756-5634 当日 小俣(おまた) 090-3436-9017

《参加申込み》3月27日(金)までに、普通ハガキに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して 〒339-0058さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて 友の会ホームページ
申込可

*新シリーズ日光道中歴史散策は、東武伊勢崎線竹ノ塚駅より栗橋駅までを8回シリーズで、お届けしています。参加費用は、300円から500円に変更させていただきました。

◆大経寺円空仏千手観音像御開帳◆

2020(令和2年)年4月16日(木)に「円空仏研究会」

《日時》2020年(令和2年)4月16日(木) 10時30分~13時ころ

《集合》東武スカイツリーライン草加駅東口午前10時30分 集合(10:40分発八潮団地行きバス・八潮団地地下車約600m・小雨開催)

《費用》拝観料・資料代他 700円(バス代往復500円は各自負担)

《内容》八潮市大経寺観音堂の円空仏・千手観音立像は像高2m43cmもあり、埼玉県最大の円空仏です。像の下半身は樺の白を縦に割ったものを上下に積み上げ、上半身は杉材を用い、千手を象徴する24本の脇手は釘で打ちつけるという大胆な作造です。寺伝によると、この円空仏は「元禄年間、東都回向院ニ於テ開扉の節、尊像ヲ請受ケ持来安置ス」とあり、回向院から持ち帰ったものであることが分かり、文覚上人の作と伝わっています。6年に一度行われる円空仏の御開帳は、地元の信徒さんによる御接待をうけながら拝観します。

《申込・問合せ》

①「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォームでお願いします。

②ハガキでの申し込みは、通常ハガキに名前・住所・会員番号・電話番号を記入の上、〒337-0042 さいたま市見沼区南中野 1183-10 齊藤文孝宛へ

③問合せ 090-4965-8275 齊藤文孝

★ 特別展『武蔵国の旗本』にあわせて同時企画 ★



旗本と知行所

—— 「日記」を素材に ——

江戸時代、武蔵国に知行地（領地）をもった旗本は数多く、その性格も多様です。

ここでは、旗本の日常生活や知行所の実情を詳細に記す「酒依氏日記」、幕府草創期の儒者林羅山や正徳の幕政を担った新井白石の日記、幕末海防政策の立案に活躍した旗本筒井政憲と甲山村（熊谷市）の豪農根岸家との交流など、埼玉に領地のあった特色のある旗本を、おもに「日記」を素材に紹介します。

日 時：4月18日(土)午後1時30分～3時（会場：午後1時）

講 師：重田正夫氏

（埼玉地方史研究会会長・特別展シンポジウム コメンテーター）

場 所：当館講堂 東武アーバンパークライン（野田線）大宮公園駅下車

参加費：300円（友の会会員）・500円（一般）

申込み：往復ハガキに、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記の上、4月11日（土）までに、

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ

*会員限定「友の会ホームページ」の「申込フォーム」からも応募できます。

（返信はいたしません）

*講演会中止の際、ご連絡するために申込みハガキには電話番号を、申込みフォームにはメールアドレスを必ずご記入ください。記入のないものは申込みがなかったものとして扱います。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会